



校長室だより～湘南の空～

第 11 号

令和 4 年 8 月 29 日

生徒の皆さんは、夏季休業中も、それぞれの目標に向かって全力で取り組んできたことと思う。湘南の伝統で、生徒が仲間や学校と対話しながら行事や部活動を運営している。

体育祭の準備について、日々困難に直面しながらも着実に進められたのではないか。体育祭実行員会の皆さんは、よく議論し、知恵を絞って、計画・運営に取り組んでおり、総務長をはじめ、各カラーの 3 年生は企画力・行動力・リーダーシップを存分に発揮している。体育祭の成功に向けて努力している皆さんに心より敬意を表したい。

授業・行事・部活動を通して、極めて高い学力、それを将来にわたって支える人間力、高校でしかできない経験とパワーをつけられるところが、湘南の圧倒的な強みである。湘南生の今後の挑戦を楽しみにしている。

湘南高校ホール改修へ寄付募る

老朽化した本校の多目的ホールの改修に向け、広く寄附を募っていることについて、タウンニュース藤沢版 8 月 19 日号に「湘南高校ホール改修へ寄付募る 予算つかず生徒ら訴え」が掲載された。本校の多目的ホールは建物の完成から 30 年近くが経過し、照明システムの一部が故障し「いつ使えなくなるかわからない状態」だが、優先度の高い改修事業が先行していることから県の予算がつかない中、放送部を中心に合唱部、吹奏楽部、絃楽部、演劇部、ジャグリング部、ダンス同好会の皆さんが力を合わせ、見事な動画を作成した。

昨年からホール内にある一部照明機器の不具合が目立ち始め、一時は全ての照明が点灯しないこともあった。現状は、使用自体はできるものの、照明や音響の操作盤も反応しない箇所がある。ホールの照明は「施設のデザインに合わせて購入した一点もの」で、操作盤などの更新を含めると 3 千万円近く必要になる。

特筆すべきことは、多目的ホールの改修のための寄附に向けて、支援を湘友会に留まらず、広く社会に訴えるべきだという考えを生徒が示したという点だ。まさに、クラウドファンディングで支援者から資金を集め、目的を持った活動を成し遂げ、支援者に還元するという、湘南生の未来につながるものだ。

今後も、寄附の募集に限らず、湘南生の活動への支援者を増やすべく、様々な企画を立案し、進めてほしい。

自由と矜持 浦和高校

6月に埼玉県立浦和高校を訪問した。浦和高校は「自由と矜持」に満ちた名門だ。次が浦和高校の教育理念とされている。

「尚文昌武（文を^{たつと}尚^{さか}び、武を昌んにす）」

「世界のどこかを支える人材を育てる」

「10年後、20年後の生徒を見据えた教育」

浦和高校にかかる印象に残った言葉として、

「部活をやっている時は勉強への充電、勉強をしている時は部活への充電」

「浦高は生徒に無理難題への挑戦を求める学校」

「最も困難な道に挑戦せよ」をスクールモットーとする本校に通じるものがあるのではなからうか。「あなたは世界をどう変えますか。」このような問いに立ち向かうことができる高校生は素晴らしい。

余談だが、今回の訪問は、私が湘南高校卓球部2年生の当時、定期戦で訪れて以来42年ぶりだ。湘南高校の歴史館に相当する浦和高校の麗和会館の展示室には大きな「湘南」と「浦和」の看板が飾ってあった。定期戦の得点板として使われていたものに違いない。当時の団体列車の遠征が懐かしく思い返された。

「知好楽」増田明美さん

子曰、知之者不如好之者、好之者不如樂之者

子曰く、これを知る者はこれを好む者に如かず、

これを好む者はこれを楽しむ者に如かず

7月9日、スポーツジャーナリスト増田明美さんの講演を聞いた。1981年、成田高校3年生の頃から日本記録を立て続けに出すなど、日本長距離界の第一人者となった。しかし、1984年のロサンゼルス五輪オリンピックのマラソンで途中棄権に終わったこと振り返り、当時、自分は負けず嫌いで、コーチの言うことを必死でやっていたが、自分がなかった、自分で考えていなかった、勝つことだけを追い、楽しめていなかったという。現在のオリンピック、特にメダリストは、自分で考え、優先順位をつけて練習し、大会を楽しむことができているとも述べ、論語の「これを知る者はこれを好む者に如かず。これを好む者はこれを楽しむ者に如かず」が大切な考え方であると強調した。実際、増田さんは、スポーツジャーナリストとしての仕事を楽んでいるように見えた。

さて、「好きなことを見つけてとことんやってみる」湘南生は、楽しむときの爆発力をよく心得ているのではないか。

生徒の皆さんには、目先の結果にとらわれず、理念・目標を掲げ突き進んでいただきたい。